

その反面、特に日本人の「アジア」についての認識のブレとの関連では、反省すべき側面が少なくないのである。

そして、現在日本の研究者に求められるのは、客観的な研究方法のさらなる進展を計るとともに、同時にインド哲学・佛教思想の現代的な意味を追求することであり、しかも、その作業を国際的な視座から行なうことであろう。

さて、この度、本書によって、日本におけるインド哲学・佛教學研究の状況が韓国に韓国語で紹介されるという。このことは、學術の国際的交流にとって極めて有意義であると私は確信する。私個人としては、本書を通じて、日本における研究が韓国人研究者の目から見た場合どのように映るのか、それを知ることができるのも、楽しみのひとつである。

思えば、かつて私自身が東京大学大学院の学生であった1960年代、中村元先生（現東京大学名誉教授）のもとで、私は海外からの留学生数人とともに机を並べて勉強した。

それから三十年、私は現在東京大学大学院印度哲学印度文学専攻の主任として、非力ながらも教育・研究について責任ある立場に立っている。そして、この専攻には、修士課程に18名、博士課程に23名、合計41名学生が在籍する。そのうち、外国人学生はそれぞれ5名と8名、合計13名であり、全体として30%を越える。このようないまだかつてない外国人学生、就中韓国人学生の比率の高さを、われわれはいま初めて経験している。学生レベルでの国際交流は急速に進んでいるのである。そして、他の大学においても、事情は同じと言ってよい。今後もこの国際交流の環はますます広がっていくであろう。

このような状況のもとに本書の刊行を見ることは、時宜を得たものであり、心から歓迎する次第である。

1994年 4月 21日

東京大学文学部インド哲学佛教學研究室
主任教授 江島 恵 教

激励のこたば

このたび、ソウル大学の崔柄憲教授のもとに、いま日本の大学院で勉學に努めている韓国の留学生諸君が結集し、日本におけるインド哲学・佛教學研究の動向を韓国の方々に紹介する一書を編むと聞く。私どもにとってまことに嬉しいことであり、また有難いことである。

私がこの分野の研究を志したのは、もう30年以上も前になる。そのころには、韓国からの留学生はきわめて少なく、私が學んだ東京大学大学院の印度哲学専門課程には一人もおられなかったと思う。それから五年ほどして、現在、韓国精神文化研究院教授の職あられる金知見先生がその博士課程に入ってこられた。當時は大学紛争の嵐が吹き荒れていて、落ち着いて研究に励むような雰囲気ではなかった。しかし、新しい時代を見据えつつ、研究への意欲だけは盛んであった。そして、この意欲を支え、私の韓国佛教への関心を次第に深めてくださったのが、その金先生である。金先生は、私と同じ華嚴思想を専攻していたこともあって、ときには私があるところ住んでいた旃檀寮という學寮にまで押しかけて來られ、熱心にお話されたり、質問されたりした。以来、金先生には今日まで親しくお付き合いをいただいているが、これが韓国の多くの先生方や留学生諸君と私の深い縁の、目に見える形での端緒であったと思う。

1993年度現在、私どもの東京大学文学部印度哲学研究室は、留学生だけで13名の大学院学生と4名の大学院研究生を抱えている。このうち、韓国からの留学生は9名である。私が学生であった時代に比べて、文字通り隔世の感がある。そしてこのことは、指導・助言の不十分さに對する危懼の思いを絶えずもちつつも、私どもにとって大きな喜びである。なぜかといえば、とりわけ現代において大切な學問を、國境と民族のわくを越えて集い合い、カルチャー・ミトラ(よき友) 同士として大勢で學び合うというこ

とが可能になっているからである.

インド哲學·佛敎學の分野に關しても, 韓國から日本への留學生は今後も増えていこうし, 是非そうあってほしい. 本書は, そういう留學を希望する若い方々のための格好の手引書となろう. また, 廣く韓國の皆さんに私どもの學問の性格と水準を知っていただくための有效な案内書ともなろう. このように有意義な本書の刊行を企劃された崔柄憲教授に深く敬意を表するとともに, 執筆を擔當された留學生諸君の勞を心からねぎらいたい.

1994年 3月 7日

臥龍庵にて
木村清孝 識

目次

發刊に寄せて / 前田專學 iii
『日本の印度哲學·佛敎學研究-その歴史と現況-』の出版を祝う / 奈良康明 v
本書の發刊に寄せて / 江島惠教 vii
激勵のことば / 木村清孝 ix

1. 印度哲學篇

日本の 인도철학 연구현황/沈 奉 燮1
日本の 상카라 철학 연구/秀 雄(李榮洙)105

2. 印度佛敎篇

日本の 초기불교 및 남방상좌부불교 연구의
역사와 현황/正圓(金宰晟)191
日本の 구사학·유식학 연구현황 개관/李鍾徹341
日本の 초·중기중관파 연구사
-나가르주나의 저서, 이해방식 그리고 解釋-/李惠卿367
日本の 후기중관파 연구/李泰昇429

3. 中國佛敎篇

日本の 中國 天台敎學 研究史/日藏(曹良淑)475
화엄학 연구 자료집/淨嚴(徐海基)591
日本の 중국화엄사상 연구의 역사와 현황
-澄觀·宗密·李通玄을 중심으로-/曹潤鎬659

집필자 소개 / 705

회 보 / 706

편집후기 / 711

총 목 차 / 713

색 인 / 715